

民報 ゆうばり 議員定数削減に賛否両論

女鹿10区国対委員長商工会議所で懇談

「議会報告会」開催 議員定数削減に賛否



2月6日、議会報告会が開催され、会場となった研修センターでは22名が、紅葉山生活館では17名の市民が参加しました。市議会議員9名のうち8名が参加し、初めに厚谷司議長から、議会の取り組みや「議員定数を9から8に削減する」ということについて報告がありました。参加した市民からは、様々な意見が出されました。議員定数削減については、「行政への監視や市民の声を市政に反映させる貴重な議席。市民懇談会などでもっと意見を聞くべき。」市民懇談

会を何度
も開くべ
き「あり
がとう、
よくやつ
た。議員
に負担も
かかるか
ら、思っ
てらば
もらいた
い「やす
やすと実
を切るよ
うなこと
はしてほ
しくな
い。」等

意見が出されました。他に、「意見書案の提案は表題だけでなく、内容や賛否の議員もわかるようにすべき。有権者はそれらの結果を次の選挙への材料とするのだから」「HPのリニューアルを。栗山町は予算書までHPで閲覧できる。もっと工夫を。」議員の価値や待遇改善について、多くの人が考えても「削減したい。」「削減した分の財源の使い道などはどう考えているか」「空き家住宅は壊してほしい」「市長給与、議員歳費も見直すべきでは」「JRの夕張支線の廃線には賛成だが、石勝線のダイヤを利用しやすく見直してほしい」などの意見が出

議会の責任とは？

議会の責任を考えると、現在の9議席でも絶対的に不足です。「予算不足のため、更に一人分の議員歳費を他の予算に回す」という考え方は本末転倒です。「財政再生団体だから仕方がない」という考えは、「二元代表制で『市民の声を市政に反映させる』

という議会本来の役割を放棄しています。夕張が豊かになるための議会本来のあり方を考えれば、提案や住民参加にもっと知恵を出し合い、時間をかけて解決策を考えるべきでした。今回は、再生計画の抜本的な見直しにかかわって、総務省との日程的な縛りの中で、住民参加の点でも、議会運営においても、不十分な議論で終了しました。

女鹿対策委員長 農業・JR問題で懇談



2月16日、女鹿北海道10区国政対策委員長は、3度目の夕張入りをし、商工会議所専務理事小網氏と1時間にわたって

懇談しました。女鹿氏は立候補を表明して、各地の自治体の首長や団体と精力的に懇談をしています。

どこの町も、「北海道の農業は、日本の食糧を支える大切な基幹産業であること。JRはそれを推進するうえで重要な公共交通であること」の共通認識で一致したことを伝えました。

小網専務理事も、同様の意見を述べ、北海道農業とJRは、ともに私たちが守っていくべきと語りました。

その後、らぶらす(旧夕張小学校)を視察訪問し、職員の方とあいさつをかわしました。

引き続き、くまがい桂子市議から、「夕張財政破綻の原因と責任」「財政破綻から10年の市民の苦難」と今すすめられている「財政再生計画の抜本的な見直し」についての説明を受け、今後の対策などについて協議しました。



野呂栄太郎碑前祭と “抵抗の歴史”学習会



2月19日野呂栄太郎没後83周年碑前祭が長沼町で開催されました。

野呂栄太郎は1900年長沼村で生まれ、北海中学を経て1920年慶応義塾大学へ入学しました。26年同大学の経済学士を取得し卒業しました。卒業論文は「日本資本主義」に関するもので、その後『日本資本主義発達前史』を出版しました。1927年には『日本資本主義発達史講座』を編さんし、マルクス経済学者として旺盛に執筆活動に専念しました。1930年日本共産党に入党したが、治安維持法によって逮捕、拘留され34年2月19日絶命しました。

33才10カ月の生涯で、碑前祭には40数名が参加し、長沼町教育長のあいさつなどで野呂栄太郎の偉業を讃え、弾圧で倒れた故人の冥福を祈りました。

終了後りふれ会場で学習会を開催し、「抵抗の歴史と野呂栄太郎」と題して治安維持法・同盟北海道本部会長の宮田汎氏が講演しました。



くずさんの 夕張歴史散歩(65)

大正10年のたたかい ⑤

登川駅前、熱狂する群衆

翌2月1日、坂口を先頭に連合会の実行委員の一行は、いよいよ登川・楓両鉦に乗り込みます。この日終点登川駅頭は、折から全山休業状況にあつた鉦夫を始め主婦・子どもたちに満ち、坂口らを迎えます。

その時の模様を北海タイムス(のちの北海道新聞)は「労働歌を高唱し、夕張の坑夫の示威。老若男女等、皆共鳴す」と見出しに打ち「午前9時、登川駅に到着するや熱狂せる同盟坑夫の一行は、一行を迎えたが其の氣勢は益々険悪を加え・・・」と報じます。



浴場や長屋の外便所の屋根の上から

これら血気にはやる鉦夫らに坂口らは、「軽拳妄動するは、現代労働運動の失敗なり。これよりの方針は、役員会で決議した六ヶ条に基づくべし」(北海タイムス)と闘いの方向を示します。

そして登川の炭住で、降り積もる雪を掻き分け、浴場や長屋便所の屋根に登り演説します。期せずして決起集会の様相になりました。

楓座でも溢れる鉦夫たち

その後、楓鉦に向かう坂口以下一行は、雪の中一里の道(約4km)を、労働歌を歌いながら楓座に入ります。ここでも熱気に満ちた鉦夫たちに、連合会への結集を訴え、要求にもとづく組織的なたたかひを呼びかけます。



紙智子「国会かけある記」
参議院議員

紙智子

人の心をつかむために

比例ブロック事務所の所長を退任された後、北海道委員会の囑託として、働かれていた、島垣正信さんが、今期をもって退職されます。お世話になった感謝の気持ちを伝えるために札幌で「ご苦労さん会」に、駆けつけました。

思い出されるのは、一九九八年の参議院選挙で、私が北海道選挙区候補になったときの事です。新しい試みとして、ポスターや宣伝物の作製のはじめから、印刷会社、デザイナーや写真家など、若い人たちの意見を取り入れようと、意見を出し合いました。

有権者は、政治にどんな思いを抱いているのか、上から目線での押しつけは嫌う、政治に関心のない人にはどんな接近の仕方があるか、にっこり笑ってこちらを見てくれるというよりは、私は政治をこう変えたい!という候補者の姿勢が伝わる方がいいなどと、議論の末にできたポスターを「いっせいポスター貼りだし」で、商店街などにお願ひすると、ほとんど断られることがなく、予想外に好反応だったこと。

「急がば回れ」ということわざがありますが、有権者の気持ちにたつて、どんな宣伝物がいいのか、よく議論し、練り上げることの大切さを学びました。人の心をつかむためには、手間を惜しまず計画を練り上げる大切さを島垣さんから学んだことを思い出します。「いつ解散総選挙があつても、勝利できる準備を今から」というこの時、あらためて思い出しました。